

名古屋外国語大学における TOEIC・TOEFL・IELTS (T・T・I) 授業実践報告

A Practice of T・T・I Classes at Nagoya University of Foreign
Studies

ヴァミュールン服部美香
Mika HATTORI VERMEULEN

1. はじめに

本報告では、名古屋外国語大学英語基幹プログラムにおける TOEIC・TOEFL・IELTS (T・T・I) の授業概要、受講生アンケート結果とその考察、今後の授業に対する課題について述べる。

2. TOEIC®・TOEFL®・IELTSとは

「国際化」という言葉と共に、英語試験の注目度も高くなっている。朝日新聞記事データベースによると2019年3月20日までに「TOEIC」は1986年4月23日以来、1269件の記事に、「TOEFL」は1987年1月15日以来、535件、「IELTS」は1993年12月10日以来、41件に登場している。「TOEIC」への関心度は高いが、国際比較データから日本の英語教育に疑問を呈する論調も見られる。例えば、朝日新聞2014年9月10日(朝刊)では500人以上の受験者がいた48の国・地域を対象に順位を付けたデータによると、日本人の平均スコアは512点で48の国・地域中40位であり、「TOEIC日本40位 国・地域別平均「実務に即した英語力」に弱点」と英語教育に警鐘を鳴らしている。一方、それより5年ほど前のものにはなるがBRITISH COUNCIL NEWS RELEASE¹(2009年9月10日付)によると、「アジア16カ国の2008年IELTS平均スコア比

較表」で日本は4技能全体では8位で、スピーキングに関しては7位であるということである。この報告書では日本人の英語力を楽観視している傾向があることからすると、「日本人の英語力」を客観視する尺度がはっきりしていないことがうかがえる。

2.1 TOEIC®とは

日本経済が世界経済の枠に組み込まれた1970年代、より多くの日本人が英語によるコミュニケーション能力を磨く必要があると実際のコミュニケーションに必要な能力を客観的に評価し、その評価を目標設定にできるモノサシの開発を命題とし、米国の非営利団体ETS（Educational Testing Service）に折衝し、開発され、誕生したのがTOEICテストである。1979年12月の受験者は3,000人あまりであったが、2017年度には年間約247万人が受験している。目標スコアを設定した英語研修、人員採用や海外部門要員の選定、昇進・昇格の要件としても活用されるようになり、日本では個人だけでなく、約3,600の企業・団体・学校が採用している。また、TOEIC Programの運営機関は世界の非英語圏にも設置され、世界約160カ国で年間約700万人が受験している。²

TOEIC® L&Rは会話やナレーションを聞いて設問に解答するリスニングセクション（約45分間・100問）、印刷された問題を読んで設問に解答するリーディング（75分間・100問）、合計約2時間で200問に答えるマークシート方式の一斉客観テストである。³

2.2 TOEFL®とは

TOEFL®テストは1964年に英語を母語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストとしてETSにより開発された。大学のキャンパス、教室、実生活でのコミュニケーションに必要な「読む」「聞く」「話す」「書く」の4つの技能を総合的に測定するテストである。英語圏の大学をはじめとした、150カ国、10,000以上の機関が、英語能力の証明、入学や推薦入学、奨学金、卒業の基準として利用しており、世界中でこれまでに約3,500万人以

上が受験している。TOEFLiBT[®]テスト以外に、TOEFL ITP[®]もあり、日本では学内単位認定、クラス分け、入試優遇、交換留学の選考などに利用されている。⁴

TOEFL ITP[®]テストは、マークシートを使った多肢選択式のテストで、問題の内容はすべて学校で学ぶ際に出てくる内容やトピックで構成されている。Listening Comprehensionが50問（約35分）、Structure and Written Expressionが40問（25分）、Reading Comprehensionが50問（55分）で、合計約115分で140問に答える。⁵

2.3 IELTSとは

IELTSは海外留学や研修のために英語力を証明する必要がある場合や、イギリス、オーストラリア、カナダなどへの海外移住申請に適しているテストである。イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほぼすべての高等教育機関で認められており、アメリカでも入学審査の際にTOEFL[®]に代わる試験として採用する教育機関が3,000を超えている。IELTSは世界140カ国の1,200以上の会場での受験が可能である試験であり、ブリティッシュ・カウンシル、IDP:IELTS オーストラリア、ケンブリッジ大学英語検定機構が共同運営で保有する。日本国内においては公益財団法人日本英語検定協会が実施運営、広報活動をしている。⁶

IELTSには、アカデミック・モジュールとジェネラル・トレーニング・モジュールの2種類があり、いずれも、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4つのテスト（合計所要時間約2時間45分）で構成されている。アカデミック・モジュールは、受験生の英語力が、英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するものであり、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドの大学や大学院では、アカデミック・モジュールの試験結果が入学許可の判断の基準となっている。⁷

3. 名古屋外国語大学1年生にとってのTOEIC・TOEFL・IELTS

本学の1年生は半期（1期、または2期）にTOEIC・TOEFL・IELTS（T・T・I）を受講する。初回の授業で受講生の状況を把握するために「英語学習に関するアンケート」を実施している。

【図表1】英語学習に関するアンケート

1. 学習歴 (例) 英会話学校3年、ホームステイ1カ月（アメリカ）
2. 英語レベル (例) 英検2級（高3）
3. 将来、英語を使ってできるようになりたいこと [留学予定の場合]希望する行き先、出発予定時期、滞在予定期間を書いてください。
4. テスト受験予定 <input type="checkbox"/> TOEIC（あり・なし） <input type="checkbox"/> TOEFL（あり・なし） <input type="checkbox"/> IELTS（あり・なし） <input type="checkbox"/> 英検（あり・なし） ありの場合（ 級）
5. このクラスでつかみたいこと

図表2は図表1の質問4にある各英語試験の受験希望者数をまとめたものである。筆者が2018年度に担当したクラスのうち外国語学部（世界教養学科2クラス、フランス語学科）、世界共生学部（1クラス）の結果を記載した。英語を第一外国語として学習している学科とそうでない学科、また高校卒業してから間もない1期（4月）と2期（9月）の違いをみるため、世界教養学科の2クラス（1期・2期）を選んだ。

【図表2】各英語試験の受験希望者数

【人】

	TOEIC®			TOEFL®			IELTS			英検		
	有	無	空	有	無	空	有	無	空	有	無	空
世教1期	20	16	1	15	21	1	1	29	7	18	10	9
世教2期	33	0	0	30	2	1	8	22	3	4	27	2
仏語1期	16	11	1	10	16	2	2	23	3	17	10	1
共生1期	29	7	0	24	12	0	1	32	3	13	20	3

【出所】「英語学習に関するアンケート」をもとに筆者作成
 (注) 受験予定が「有」「無」、「空」は空欄をさす。

すでに英検2級を持っているのにも関わらず「今後英検2級を受験予定」と記載してあるものがあるなど、質問の意図が正確に伝わっていない可能性が高いケースもあった。ただし、IELTSに関しては挙手で受験予定の有無を確認したが、アンケート結果と大きな違いが見られなかった。「IELTSが何か聞いたことがない」との回答もあった。また、TOEIC®やTOEFL®の点数を伸ばしたいと書いているものの、今後これらの試験の受験予定はないとか、留学を目指しているのにTOEFL®の受験予定はないといった矛盾した回答もあった。1年生の12月に全員がTOEIC®を受験することになっているが、特に1期は入学間もないこともあり、今後の予定が把握できていないことがうかがえる。

学生から英語学習に関する相談を受けることがあるが、1年生からの質問で特に多いのが、下記の内容である。

- ① 留学をしたいのでTOEFLの点数を伸ばしたい。伸ばす方法を教えて欲しい。
- ② どの参考書を使ったらいいか教えて欲しい。
- ③ 高校までに十分な勉強をしてこなかったため、周りの人があまりにも出来るすぎるので驚いている。何から始めていいのかわからない。

入学して間もないころは、TOEICとTOEFLの違いがよくわからない場合がある。例えば、「TOEICよりTOEFLの方ができる」と話していた学生に根拠を聞いてみると、TOEFLの方が点数が高いからだということであった。実際TOEFL ITPでは点数は310点から677点の間になるため、TOEICが310点未満の場合にこのように判断する場合が多いと考えられる。相談に来る学生らにとっては、例えばTOEFL ITPで100点をあげるとは具体的にどのような状態になることなのかイメージをするのが難しい。学生自身の現状把握と、望む結果がどのような状態なのかをわかりやすくするために、希望者には時間を測ってTOEFL ITP公式問題集などを解かせ、理想の点数になるにはあと何問ほど正解する必要があるのかを視覚化する機会を設けている。②については、授業中に紹介し、③については私が所属する世界教養学科においては、入学前オリエンテーション時から基礎から復習するよう声がけをしている。オ

リエンテーションの帰りに新しくできた友達と共に参考書を買に行き、入学前から勉強を始めていたというのはよく聞く話である。IELTSの相談を受けるのは、全学支援制度を使ってイギリス、カナダ、オーストラリアへ留学する際に、学部授業を受けるのにIELTS6.0（またはそれ以上）が必要という場合である。いずれもすでにTOEFL ITPで平均500点をクリアしている学生であり、自主学習も促しやすい。オーストラリアのマッコリー大学が開発し世界展開しているIELTS Online講座も本学の学生が受講できるようにしてあるため、TOEFL520点以上の学生にはオプションとして勧める場合もある。

4. T・T・Iのコースデザイン

どのレベルの学生であっても1年生半期15回でTOEIC、TOEFL、IELTSの3種類のテスト形式に慣れ、自信をもってテストに臨むことができるようになるという非現実的と思える目標ではなく、これら3種類のテスト問題を紹介しつつ使用し、英語の基礎力（主にリスニング、リーディング）を養うことを目指している。コース開講当時、60人以上からなるクラスが複数あったこと、学科によってはTOEIC200点代から900点超の学生が混在していたこと、英語圏への留学に興味がないなど様々なニーズがある中、全クラス同じ教材、シラバス、進度、難易度で授業をすすめるという複数の懸念される点があった。

4.1 T・T・I担当講師チーム

T・T・I担当講師チームのメンバーは英語資格試験以外でも英語教授経験が豊かで、TOEIC200点以下から900点超の学生にも対応でき、仕事に対する情熱があり、人としても魅力的である。筆者を含め5人のメンバーは授業の前後で情報交換するだけでなく、1年に1度は講師ミーティングを開き、全員でさらに指導方法を研鑽する機会を設けている。以下は2019年1月にチームのメンバーがお互いの紹介文を作成したものを本稿の文体に合わせて筆者が編集したものである。（講師名は五十音順）

[佐藤真理講師]

学生時代をイギリスの大学で過ごし、ウクライナ、ルーマニアといった東欧の国々でインターンや就労経験を持つ活動的な講師。イギリスへの留学経験からIELTSに精通し、英国留学手続きの相談もできる。英語の4技能の指導はもとより、TOEIC®、TOEFL®といった資格試験対策にも尽力する。英語があまり好きではない学生もモチベーションが下がらないように支援を心掛け、外国語が使えることのメリットに気づいてもらえる授業を目指している。

[松尾由佳理講師]

アメリカの高校で、学習困難者を対象に、英語の文法・ライティング、また日本語についてもチューター及び教授経験がある。アメリカ在住の日本人という「外国人」の立場で、アメリカ人学生や親や祖父母が移民として渡米してきた多国籍の学生に学習支援する際には、学生の学ぶ意欲を育てたいという気持ちで日々励んできた。松尾講師自身も上記の経験に至るまでにはTOEFL®の学習に熱心に取り組み、アメリカの大学で学んでいる。留学中には平日は相当量の課題に追われたが、週末には有志で語学の勉強会を行い、様々な話題について積極的に意見交換を行った。その経験の中でリーダーシップの育成や協働学習の重要性を再認識し、現在の指導に積極的に活かしている。

[吉村愛子講師]

現在英語教師として勤める傍ら、博士号取得を目標に「資格試験学習者の困難点」をテーマとする研究を行っている。大学院での研究と学んだ専門を、まさに現在の仕事に結び付け、大いに活かせる場として取り組んでいる。吉村講師の研究によると、特に「語彙」「文法」「読解」が困難点として挙げられるが、その中で取り組みやすく習得感が出やすいのは「語彙」「文法」であるため、授業では語彙・文法習得のための演習に力を入れている。また、授業後の学生の振り返りシートの内容を分析し、困難点への対処を念頭に授業を展開している。

[若槻なぎさ講師]

高校はフィリピンのインターナショナルスクールに通い、アメリカのニュー

ヨークやアトランタにも数年滞在するなど、国際経験豊かな講師である。多文化な環境で過ごし、現地にもたくさんの友人がいる。資格講座のほかにも英語の4技能を指導しているがTOEIC®は自身が過去2回の試験で満点のスコアを持つエキスパートである。明るい雰囲気ととにかく楽しくアットホームな雰囲気の授業を心掛けている。

4.2 T・T・I授業の実践

T・T・Iは1年生時の授業であること、市販されている問題集は高校英文法を理解している前提で書かれた解説が多いこと、本学ではどの学部でも高校英文法の授業はほぼないことから、高校英文法の簡単な復習をしつつTOEIC®とTOEFL®の文法問題を解く時間を入れている。以下は2018年度のシラバスの一部である。

【図表3】 2018年度T・T・Iシラバス（一部）

第1回	授業概要と成績評価、アンケート、伸長度テスト①と結果分析
第2～13回	[文法・文法問題] 5文型、時制、受動態・能動態、助動詞、不定詞、動名詞、分詞・分詞構文、関係詞、仮定法、形容詞・副詞、名詞・冠詞、接続詞 [TOEIC] テスト概要、Listening（写真描写問題、応答問題、会話問題、説明文問題）、Reading（長文穴埋め問題、文書問題） [TOEFL] テスト概要、Listening（二人の話し手の会話、短めの話）、Reading（自然科学、社会科学） [IELTS] テスト概要、Listening、Reading
第14回	伸長度テスト②と結果分析
第15回	まとめテスト

4.3 伸長度テストでの学生の気づきを踏まえた授業の流れ

TOEIC®は合計2時間のテストであるが、伸長度テストではその半分の1時間にした問題（Listening50点＋Reading50点、計100点満点）を使用している。高校時代に受けた英検（ほぼ2級まで）に慣れているため、英検との違いに

衝撃をうけるようである。Listening問題のナレーションは1回のみであること、メモなどの書き込みができないこと、Listeningの速度や問題量にも圧倒されたというコメントが見られる。以下は伸長度テスト①後の学生のコメントである。

■Listening

[0 - 14点]

軽い寝不足で疲れ、文章で目がくらんだ。英検とかと違ってもう一回言ってくれないので1回で必要な情報を聞き取るのがすごく難しかった。何をいつているかわからなかった。4問目からねむくなって寝ながらといていた。はじめから何も頭に入ってこなかった。

[15 - 29点]

早さについていけなかった。聞き取れないので疲れる。途中からぼーっとして何を言っているのかさっぱりわからなかった。次は7割ぐらい正解するようにしたい。Part2がぜんぜんききとれなかった。中間あたりから追いつかなくなって飛ばしたところがあった。やっぱりリスニングは子守歌。わからなくて考えてると次読み始めて、結局2問ほど中途半端っていうのがいくつかあった。全然ききとれなかった。33あたりから疲れた。Part2の途中から寝てしまった。ほとんど理解できない。早くてびっくりして全然聞き取れなかった。半分くらいで寝てしまった。

[30 - 50点]

想像以上に早くて大変だった。いつもより英語が聞き取りづらかった。途中でおいていかれた。Part3くらいから集中できなくなった。一人一人違う英語で話すのでおいてかれる。中間になって集中力きれた。Part3ちょっと気を抜くと全くわからなかった。Part3が右から左へと聞き流してしまうことが多かった。

■Reading

[0 - 14点]

最後の方は何が書いてあるのかほとんどわからない。長文になった時ぐらい

から眠たくなってきた。首が痛くなってやる気がなくなっていた。後半20分ほどは肩と首が疲れてきた。受験生の時は長文が得意だったから結構ショック。単語も文法もわからない。途中、寝てしまった。83から疲れた。文法ができたと思ったのに全然だめだった。読解が多すぎた。文法がしっかりできていない。

[15 - 29点]

文章題が長くて最後まで解けなかった。文法あたりが弱いと思う。集中力もったけど、わからない単語がたくさんあった。時間がまにあわなかった。中盤からいきなりできなくなった。同じところを何回も読んでしまったり、寝てしまったりして、時間内に終わらなかった。徐々に全く分からなくなって集中力が落ちる。78くらいからやる気をなくし眠くなった。体力をつけてがんばりたいです。文法と単語力なさすぎ。文法ミスが多い。

[30 - 50点]

該当者なし

上記のように、初回の状態を把握した後で、何が必要であるかを各自考える時間を設けている。各試験の対策というよりは、まず、試験時間に耐えられる体力をつけたいという声が多かった。T・T・I開講間もない頃、「もっと文法（Reading/Listening/問題演習）をやってほしかった」などの声が上がったが、15回の授業で何を望むのかは各学生にとって違うため最大公約数的な授業をすること、「何かやって欲しい」と待っていても時間に限りがあるため、より何かを勉強したいと思ったら各自その分野をすすめていくことを注意事項とし、主体的な学習者としての心構えを少しずつ伝えることを目指している。「～がわかりません」ではなく、自分である程度までやってみたが、それ以上わからないという場合に関しては、できる限り応援するとも話している。

具体的な授業の大まかな進め方は、シラバスのとおりであるが、各講師、そしてクラスのレベルニーズに合わせたものになっている。筆者のクラスでは、毎回、文法・文法問題の導入からはじめる。あらかじめ伝えてある文

法事項に関し、自分の言葉で相手に1分で説明できるようにしてやることを宿題としている。参考書は自分に合ったものを選ぶことを勧めているが、選び方については初回の授業で伝え、さらにいいものについてはクラス内でも紹介している。文法問題は数種類のTOEIC®とTOEFL®問題集から異なった難易度のものを選び、各自設けられた制限時間に解答したのち、解答の根拠をペアで話しながら説明することになっている。TOEIC®、TOEFL®、IELTSのListeningとReading問題はただ単に問題を解くだけでなく、理解し、定着させるための様々な方法を試みることで、英語力を高める機会にしている。それぞれのテスト問題の傾向を俯瞰することで、そもそものテストの目的を意識させることにも心掛けている。以下は伸長度テスト②後の学生のコメントを伸長度別に記載したものである。コメントを書く際、伸長度テスト①の結果との比較、受験時の体感覚の違い等を意識させた。

■Listening

[マイナス～5点]

前回よりも少しだけ聞き取れるようになりました。リスニングの問題がいきなりすぎて聞き逃すことが多かったです。(20→24)

[6点～10点]

比較的短いところは理解できたけど、長いとわからなくなる。長い文章を理解するためにディクテーションしたい。(19→29)

Part1, 2がスピードについていけなかった。Part3は先読みができるようになって、音声に集中できた。前回よりも集中力があがった。最後まで聞いた。dictationとrepeatをこれからも続ける。(15→24)

かなり集中して解くことができた。(16→26)

Part4が前回より聞き取れていた。(21→31)

[11点～15点]

リスニングの睡眠時間が減った、前より寝てない！(11→24)

■Reading

[マイナス～5点]

長文への恐怖心をなくすために、1日1つ文章を読みたい。持久力が本当にないので、英語に限らず2時間ぶっ通しで毎日勉強する。TOEICは12月に545点、入学時が455点。

(26→27)

長文の問題が難しくて文が読めなかった。冬休みと春休みは中学・高校の英文法をもう一勉強しなおしたい。単語もわからないことが多いから、高校の単語帳をもう一度覚える。(15→17)

長文で何を言っているのか理解できてうれしかった。(29→31)

Part6が伸びた。Part7はひたすら眠かった。寝不足。(18→20)

80番くらいから眠いのを自覚して寝ました。わからない単語がありすぎです。(17→20)

[6点～10点]

前より読みの部分に入っても眠たくなることがなかったです。少し読んで理解する力がついたかなと感じました。(14→20)

時間は余る。その余裕を正答率に繋げたい。(27→34)

Part7の長文で一気に集中力が途切れてしまった。最後は間に合わず、カンで書いてしまった。(6→12)

すらすら読めてびっくりした。一問ずつじっくりできた。適当にやらなかった。時間が足りなかった。(13→22)

Part7が間に合わないけど、前回より解きやすいと感じた気がする。(10→20)

Part5の解くスピードがあがった。(16→26)

[11点～15点]

Part7の途中でねむってしまった。(14→26)

全体的に上がったので、長文を落ち着いて解きたい。(21→32)

文法のところで寝落ちしてしまった。本番ではあまり昼飯を食べないようにする。文法が弱いと思った。(9→20)

1セッションごとの中間で集中力が毎回切れる。(18→29)

講座最終日にさらに各自気づいたことをまとめた。中学・高校で学習した

文法事項の重要性や効果的な学習方法について実感が伴ったことが読み取ることができる。

[クラスメートについて]

みんなの英語力がだんだん上がってきているように思います。ですが、私はあまり努力してないので進歩を感じられなかったので、今日から毎日英語に触れる時間を増やしていきます。(中)

中国語学科でも英語の授業にしっかりと取り組んで自分の意見をきちんと言っている人が多かった。寝ている人が全然いなかったし、真剣に聞いている人が多かった。(中)

文法を説明するのがみんな上手だと思った。(世)

雰囲気が良い。やりやすかった。(世)

[自分について]

長文を読むのが苦手だったけど、TTIの授業を週一で受けていくにつれて、普段より英語を頭に入れる機会が増えた。(中)

文法と長文が特に出来が悪いことに気が付きました。(中)(世)

文法をもう一度おさらいできてよかった。(中)

私は今まで不定詞とか能動態とか言われても意味がわからなかったからどういいう文法なのかわからなかったけれど、この授業を通してわかるようになりました。(中)

大学に入ってからAll Englishの授業になったので、Listening能力は前より上がったと思う。しかしReadingは下がった。(中)

英語の苦手意識が強くなりました…。(中)

自分の出来の悪さを改めて知りました。(世)

受験期に比べて英語力が落ちているかなと実感した。(世)

あまり成長していないように感じました。(世)

文法系が苦手だと痛感しました。しかし、この授業を通して集中力や解こうとする気が以前よりあがったと感じています。(世)

[テストについての気づき]

この授業を通して、単語が難しくても文法がわかれば解ける問題もあること

を知って驚いた。(中)

穴埋め式などで全然わからない時に、動詞、名詞、形容詞などから判断することができるということがわかった。(中)

TOEIC、TOEFL、IELTSは知識の問題であるけれど、問題に慣れるだけで点数がこんなにも変わるんだと思った。(中)

英語の能力だけでなく、体力や集中力がとても大切だと思った。(世2名)
各セクションやTOEIC、TOEFLで別々の勉強法があることがわかった。(世)
[ペア学習について]

自分が理解していても、人に教えることは思ったよりも難しく、とても勉強になったが、あまり仲良くない人とペアの時はすごく気まずかった。(中)
違うクラスの人と話す機会ができてよかったです。(中2名)

文法を詳しく人に説明するのが難しかったです。もう一度きちんと勉強する必要があると改めて思いました。(中)(世)

文法力のなさを実感していたのですが、授業中に先生役になるまでに自習学習して相手に教える形で文法を伝えることで、より自分も理解し記憶に残ることに気づきました。(世)

ペアワークで訳と英語に分けてやるが多かったので、以前よりリスニングの意味がわかるようになった。(中)
[学習法について]

繰り返し細かく聞き、耳に英語を慣れさせることが大事だということ。(中)
声に出す練習(シャドーイングとか音読とか)がすごくリスニングに効果があってびっくりした。(世3名)

何回も繰り返し練習することで確実に力がのびるとわかった。(世)
自分で例文等を考えたり、楽しんで学ぶことが大事だということ。(中)
中・高の時にやっていた文法を中心に授業中やってきたけど、自分が全くわかっていなかったことに気づくことができたので、文法からまたやり直したいと思えた授業だった。(世3名)

中・高で勉強した文法を忘れていたことがわかった。高校の時の文法書をやり直す必要があると思った。(世2名)

文を読むときに文法を意識できるようになった。(世)

文法は大事だなと思った。(世2名)

文法がわかっているつもりで問題が解けないものがあった。(世)

この授業以外でいかに文法を使ってないかが分かりました。もっと意識したいです。(世)

クラスでの授業はすごく楽しみながらできた。楽しかった。(世2名)

間違えても、クラスメイト全員で何で違うのかを考えられる姿勢が良かったです。(世)

先生は答えを間違えても優しくわかるまでやってくれる。(世)

5. おわりに

以上、TOEIC®・TOEFL®・IELTSの特徴と、1年生次での取り組みを見てきた。1年生次においてはTOEIC®については日本語で読んでもなじみがない内容があること、高校生までに慣れてきたレベル別になった試験問題とは全く異なっているため、本番のテストの半分の問題であっても集中力が維持できないことがわかった。細かなテクニックよりもまず、英語の「耐性」をつけることが重要であり、基本的な文法、読解、聴解力を養うことが重要であると学生自身も再認識したようである。TOEFL®やIELTSは長期留学の準備としてテストを有効活用するよう促した。長期留学中、大量に文章を読む必要が出てくること、そして、大学生活に必要な英語をテストからも学ぶことができるというように、能動的にテストを活用するヒントを授業の端々にちりばめるよう心掛けた。また、留学をしなくても、ある程度内容がある文章を読むときに必要になる内容であるため、全くわからない時に対処していく方法をいくつか紹介することに徹した。TOEFL®、IELTSを勉強することで先にTOEIC®の点数が上がることはよくあることで、テスト勉強というよりは、テストを活用した英語の勉強あるいは留学の準備になること、そして、テストのみならず、様々なことを成長の機会として積極的に活用することを切に願うばかりである。

注

- ¹ プリティッシュカウンシル NEWS RELEASE
<https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/japan-exams-ielts-press-release-10sep2009-jp.pdf>
- ² 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
https://www.iibc-global.org/toeic/toeic_program/philosophy.html
- ³ ETS TOEIC 「テストの形式」
<https://www.iibc-global.org/toeic/test/lr/about/format.html>
- ⁴ TOEFL テスト日本事務局
<https://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/index.html>
- ⁵ ETS TOEFL ITP 「テストの構成」
<https://www.cieej.or.jp/toefl/itp/composition.html>
- ⁶ 公益財団法人 日本英語検定協会
www.eiken.or.jp/ielts
- ⁷ 公益財団法人 日本英語検定協会 「IELTS テスト内容」
<http://www.eiken.or.jp/ielts/test/>

参考文献

朝日新聞2014年9月10日（朝刊）

ウェブサイト（すべて最終アクセス2019年3月20日）

- 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
https://www.iibc-global.org/toeic/toeic_program/philosophy.html
- 公益財団法人 日本英語検定協会
www.eiken.or.jp/ielts
- 公益財団法人 日本英語検定協会 「IELTS テスト内容」
<http://www.eiken.or.jp/ielts/test/>
- プリティッシュカウンシル NEWS RELEASE
<https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/japan-exams-ielts-press-release-10sep2009-jp.pdf>
- ETS TOEFL ITP 「テストの構成」
<https://www.cieej.or.jp/toefl/itp/composition.html>
- ETS TOEIC 「テストの形式」
<https://www.iibc-global.org/toeic/test/lr/about/format.html>
- TOEFL テスト日本事務局
<https://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/index.html>